

奈良高専 図書館だより

No. 1

記事

1. 発刊に当って
2. 汗牛充棟
3. 発刊に際して
4. 新着図書案内
5. おしらせ

1979年1月 奈良工業高等専門学校 発行

「図書館だより」の 発刊に当って

学校長 小森三郎

高専の図書館は書庫と閲覧室だけでなく、優れた視聴覚教室と談話室を備えております。学校内で最も整った勉強場所であると共にこの場所として、学生諸君に親んでもらう所にしたと思っています。視聴覚設備の充実には後援会の援助や寄付金を国費と共に計 1,500万円投入しました。今後さらに費用を投入して一層充実して行く積りです。図書館委員会の中に視聴覚小委員会が本年から作られ、その高度利用を計画しています。この優れた施設を教官ならびに学生諸君は充分活用されることを希望します。

最近テレビが普及し、若い人達が読書に親しむことが少なくなったように思います。テレビは簡単な一般的な情報を、速く、安易に得るのには優れていますが読書の方が勝ること、読書以外には得難い知識も多いのです。

読書は自分のペースでやれるので頭に入り安く、繰返しが出来、熟読することによって、難解なことも正確に理解出来ます。特に科学や技術の文献や書物は人類の宝ですが、一般的でないのでテレビで放送されることは極めて少なく、他人から教えて貰えないものです。

専門家も個人の脳裏には収めることは出来ないのも、必要に応じて文献を調査し、それを読むことが必要なのです。技術者や研究者はそれを生涯続けることになるのです。書物は技術者の一生の伴侶ですから、書物に親しむ習慣は少しでも早くつけていただきたいと思います。

高専に立派な図書館が作られたのは、このためであることを良く認識して欲しいと思います。

授業が終るとすぐ帰路につくのではなく、習慣的にまづ図書館に足が向くようになってほしいのです。低学年の学生は、授業が終ればまづ図書館に行き、高学年の授業が終るまで本に親しみ、それからクラブ活動をして、帰宅するのが理想です。

この「図書館だより」の発刊は少し遅れた感じですが、これから新しく購入される本や参考書を毎号紹介しますので競って読んで、読書感想文を書いて下さい。私も感想文を読むように努めたいと思っています。

(2) 図書館だより

汗牛充棟

山本 績

中国において一世紀ごろ後漢の祭倫によって始めて紙が製造されたといわれている。いわゆる書物がこの世の中に出てきたのはそれ以後である。もっともそれまでは粘土板とか竹綿とかまたは羊皮等を用いて文字による情報伝達が行われたと思われる。

紙が製造された当時はきわめて高価であって、特定の階級の人々しか利用できなかったであろう。王侯貴族たちがその政治の指針としていわゆる四書五経のような書物を作成したと思われる。

「春はあけぼの、やうやう白くなりゆく山ぎは少しあかりて、紫だちたる雲の細くたなびきたる。」で始まる枕草子は平安中期の清少納言の随筆としてよく知られている。

清少納言はあるとき中宮定子が献上品の紙について、これをどのように使用したらよいかとつき人たちにたずねられたとき、即座に「枕にしてん」と答えたといわれる。中宮がその才気をめめてその紙は清少納言に下賜されたので、清少納言はこれに随筆風の日記を書きつけたといわれるが、これが「枕草子」である。

清少納言の時代では一般の市民はこのような枕紙を自ら入手することは容易ではなかったことを物語っているといえよう。

平安朝の宮廷生活の内部を刻明に叙述したものに、枕草子の外、和泉式部日記、紫式部日記などがある。

紫式部が長編創作である五四帖からなる「源氏物語」を書いたとき、現代のように原稿用紙をふんだんに書きつづすということは多分できなかったであろうから、あの長編ドラマの筋書を頭の中で綿密につくり上げた上で書き下ろし風に書きあげたのではなかろうかと思われる。

近年に至り製紙技術の発達、活字鑄造技術の進歩により、書物の刊行がきわめて容易にかつ比較的安価に行われるようになって、人生の指針に足りる名著良書のみならず各種の内容の書物が巷に氾濫し、いわゆる玉石混淆の事態を招来するに至った。ここで市民にとっては書物の入手が容易になった反面、その内容の選択が必要となってきたのである。

従来個人としてはその専門とする比較的せまい領域に関する書物を集めて、保持することが可能であったが、現在ではおびただしく新刊される書物のすべてを収納することは経済的にも施設のにも不可能となってきており、ここに公的存在としての図書館の重要性がクローズアップされてきた。

かつては単に情報源の倉庫というイメージしかもた

なかった図書館は、その後教育の一環としてライブラリー活動が導入されるに及び、そのイメージチェンジが行われて、学校図書館の普及改善はめざましく、その内容もきわめて多彩かつ豊富となってきた。

しかし、最近ではいわゆる定期刊行物の激増により、そのバックナンバーを長期保管することが困難となってきて利用度の比較的少ないものは廃棄処理が考えられるようになってきた。

一般に自然科学系の雑誌類の古いものはあまり用はなくなるであろうが、人文科学系の雑誌では古いものでも依然として価値をもつものが少なくないので、両者は同一の基準で取扱うことはさけるべきであろう。

このことはいわゆる単行本についても同じであって、おそらく明治、大正あるいは昭和の初期に刊行された自然科学書は骨董としての価値もないが、人文科学書は、明治、大正はいうに及ばずそれ以前に刊行されたものでも重要性を失わないものも少なくない。

図書館としては各種の書物を多数に集めていわゆる汗牛充棟を誇るべきではなく、その内容を取捨選択することにより、情報の検索が迅速にかつ正確に行うことができるように配慮することが必要となろう。

(図書館委員会委員長)

発刊に際して

上田悳巳

本校でも、このたび、関係者の長い間の念願であった図書館だよりが、ごらんのような形で発刊されることとなった。

本校が桜井の仮校舎から郡山に移って10年余が経過し、その間、図書館(図書室)も、本館2階(現在の2E、2CのCR)から1階へ、そして現在の図書館へと学校も成長と共に大きくなってきた、それに併って蔵書数も増え、設備も充実しつつある。

その間、図書館に関するいろいろな事柄は、学校だよりや校内掲示などによって、伝えられてきたわけだが、これらをまとめて、より一層中味の濃いものとし、図書館の現在の姿をよりよく理解して貰って、図書館利用の便とすべく、刊行されるのである。

当面、年間数回の発行となるが、軌道にのれば、利用者の声なども参考にして、将来は季刊程度の定期刊行にしたいと思っている。

次に、ここでとりあげようと思っている記事について記しておきたい。

まず、新着図書を紹介・案内が欠かせない。年間、可成りの書籍が図書館の蔵書に加えられる。新刊の書物だけではなく、少し以前に発刊されたものから古書にいたるまで幅広く購入されているので注意して見て

図書館だより(3)

もらえば役立つことも多いと思う。また、しばらくの間は新着図書の一覧表といった程度になるが、ゆくゆくは、簡単な内容紹介なども盛り込めればと思っている。

次に、図書館の利用状況などについての報告がある。図書の貸出数などの統計資料が主になるが、今にだんだんと整備されるであろう視聴覚関係のものも対象となる。これらの資料を通じて、図書館利用の現状を認識し、そのあり方を考えて頂ければ幸いである。

また、図書館の蔵書についての資料も順次のせていきたい。どんな書物があるのか、どんな雑誌がいつから揃っているのかなども知ってもらって、どんどん利用して欲しいと思う。

図書館からのお願いや、図書館利用についての注意なども入ってくるだろう。

以上のような事務的なスペースの他に、まだ具体的に細部までは案ができていないが、次のようなことにもスペースをさきたい。

読書感想文・随筆・利用者の声などといった、読者サイドのスペースである。この小誌が図書館側からの一方的な報告書めいたものにならないようにするためにも、ぜひこの点に力を入れたいと思っている。皆さんのお力添えがあってこそこのことなので、ここにご協力をお願いする次第である。

とにかく、余りかた苦しいものにせず、図書館を通じて、この図書館だよりを通じて、みんなの交流の場ができていくような、なごやかなものになりたい。

号を重ねるごとに充実していくであろう本誌の発展を祈念しつつ。

(図書館委員会図書部会主任)

新 着 図 書 案 内

1. この案内は、図書室に配架されている図書についてのみである。

2. 配列順は、次のとおりである。

総記
 哲学・宗教
 歴史・地理
 社会科学
 芸術
 体育
 語学
 文学
 工学共通
 機械工学
 金属工学
 電気工学
 化学・化学工学
 その他の工学・産業
 自然科学

<総記>

Books in print 1977-1978. Vol 1-4 Bowker
 出版年鑑 1978 出版ニュース社
 学術雑誌総合目録・自然科学欧文編 } 紀伊国屋
 第三補遺版(1975年版)国際医学情報センター }
 国書総目録 7-8 岩波
 奈良県立奈良図書館蔵書目録 第三巻 奈良図書館
 国民百科事典 9-13 平凡社
 The Americana annual 1978. Grolier
 世界の博物館 1.2.4.5.8.10.12.14.21. 講談社

朝日新聞に見る日本の歩み 朝日新聞社

昭和33-35年 安保体制下の国造りV

38-39年 高度成長への信仰II

ちくま少年文庫 11-16

筑摩

ちくま少年図書館 38-39

筑摩

<哲学・宗教>

日本思想大系 40:本居 宣長 岩波

岩波

プラトン全集別巻:総索引藤沢令夫

岩波

<歴史・地理>

二十世紀 4

尾鍋輝彦

中央公論社

日本国民の世界史

上原専祿

岩波

神話と歴史

直木孝次郎

吉川弘文館

日本考古学概説

小林行雄

東京創元社

日本近現代史辞典

東洋経済新報社

日本史小百科 1-7

近藤出版社

日本史用語大辞典(全二巻)

柏書房

塔

梅原 猛

集英社

人物日本の女性史12

角田房子他

集英社

有職故実日本の古典

室伏信助他

角川

研究史戦後の邪馬台国

佐伯有清

吉川弘文館

古代の日本 1-9

竹内理三

角川

武士団と村落

豊田 武

吉川弘文館

日本荘園史概説

安田元久

吉川弘文館

江戸時代図誌別巻:二

児玉幸多他

筑摩

近代日本史の基礎知識

藤原 彰他

有斐閣

日本帝国主義の形成

井上 清

岩波

ある昭和史、自分史の試み

色川大吉

中央公論社

図書館だより(5)

高校生のためのウイニング、ベースボール Smilgoff, James	小学館ランダムハウス英和大辞典 上・下	小学館
ベースボール、マガジン社	詳解英文法辞典 縮刷版 井上義昌	開拓社
チャナディのサッカー-1,2 Csanadi ベースボールマガジン社	英文構成法 佐々木高政	金子書房
写真と図解によるサッカー 多和健雄 大修館	新自修英文典 山崎 貞	研究社
写真と図解によるバスケットボール 高橋政利 大修館	現代実用英文ガイド 北川大憲	北星堂
写真と図解によるバレーボール6人制 豊田直平 大修館	書く英語 実用編 松本 亨	英友社
初歩のスキー技術 末岡達彌 成美堂	和文英訳の修業 佐々木高政	文建書房
新登山入門 安川茂雄 二見書房	英語のスピーチ 遠藤 隆	NHK
キャンプ 上・下 垣内芳子 不味堂	科学的英会話独習法 吉野義人	研究社
オリエンテーリング教室杉原潤之輔ベースボール、マガジン社	入門ドイツ語 小塩 節	白水社
オリエンテーリング入門 紺野 晃 スキー・ジャーナル社	入門フランス語 篠沢秀夫	白水社
写真と図解によるすもう 平間光雄 大修館	入門スペイン語 寿里順平	白水社
レスリング、フリー、スタイル 笠原 茂 不味堂	入門イタリア語 秋山余思	白水社
剣道入門 大島宏太郎 東京書店	新伊和辞典	白水社
写真と図解による新しいなぎなた全日本なぎなた連盟 大修館	入門ロシア語 灰谷慶三	白水社
弓道入門 稲垣源四郎 東京書店	エスペラント四週間 大島義夫	大学書林
写真と図解による弓道 小笠原清信 大修館		

<語学>

漢語と日本語	藤堂明保	秀英出版
ことばの生態	入谷敏男	日本放送出版会
現代の国語学	時枝誠記	有精堂
岩波講座日本語 別巻	大野晋也	岩波
日本語講座1,6		大修館
基礎日本語	森田良行	角川
国語学	築島 裕	東京大学出版会
国語のイデオロギー	渡部昇一	中央論社
漢字の発掘	加藤常賢	角川
漢字の用法	武部良明	角川
漢字の読み方	武部良明	角川
角川字源辞典	加藤常賢	角川
漢字の語源	山田勝美	角川
ことばの意味	柴田 武他	平凡社
擬音語擬態語辞典	浅野鶴子	角川
敬語の使い方	大石初太郎他	明治書院
文章の書き表し方	大倉佐一	明治書院
文章心理学	波多野完治	大日本図書
比喻表現辞典	中村 明	角川
正しい話し方	松野善弘	明治書院
全国方言辞典	東篠 操	東京堂
入門中国語	金丸那三	白水社
中国の文字改革	さねとうけいしゅう	くろしお出版
英語で考える本	松本 亨	英友社
英語発音の知識	小栗敬三	篠崎書林
英語語源小辞典	中島文雄	研究社
英米風物資料辞典	井上義昌	開拓社
項目別時事英語事典	堀内克明	ジャパンタイムズ
The New Oxford Illustrated Dictionary, Vol.1,1-2		Oxford Univ. press

<文学>

海外推理傑作選1-4	松本清張	集英社
世界の文学1-3,5,9,24,28,32,38		集英社
世界の詩集1-20		角川
日本文学史早わかり	丸谷オ一	講談社
図説 日本の古典2,5,7,14,15	伊藤博他	集英社
源氏物語評釈1-12, 別1-2		角川
日本の詩集1-20		角川
愛・軽井沢	清水一行	集英社
愛の幻滅	田辺聖子	光文社
愛のむこう側	朝吹登水子	新潮社
愛の年代記	塩野七生	新潮社
愛の潮路	佐木隆三	光文社
赤い絨毯	清水一行	徳間
悪魔のくる家	北 杜夫	新潮社
アメリカン*アメリカ	犬養道子	文芸春秋
あめゆきさんの歌	山崎朋子	文芸春秋
悪しき星座	森村誠一	新潮社
あやふや	野坂昭如	河出
バブリング創世記	筒井康隆	徳間
文豪挫折す	草野唯雄	光文社
白夜の密室	海渡英祐	角川
病院坂の首縊りの家	横溝正史	角川
小さい目のフランス日記	根本長兵衛	朝日新聞社
ちよっといい話	戸板康二	文芸春秋
中年ちゃんばらん	田辺聖子	講談社
コメディアン犬舎犬地獄	沼田陽一	光文社
第三の女	夏樹静子	集英社
大統領を殺せ	谷口正彦	祥伝社
団塊の世代	堺屋太一	講談社
越境線	谷 克二	角川
ファシストたちの雪上・下	井上光晴	集英社

(6) 図書館だより

富豪刑事	筒井康隆	新潮社	黒い雪	黒岩重吾	中央公論社
風子	平岩弓枝	新潮社	狂いだすのは三月	松崎陽平	河出
不毛地帯3-4	山崎豊子	新潮社	任った弓	南部樹未子	光文社
風紋	松本清張	講談社	草のことづて	石牟礼道子	筑摩
冬のササノオ	畑山 博	集英社	曲者時代	柴田錬三郎	集英社
ガラスの階段	津村節子	文芸春秋	レモン色の月	源氏鶏太	新潮社
ガラスのうさぎ	高木敏子	金の星社	まどう 上	瀬戸内晴美	新潮社
銀行破産	広瀬仁紀	徳間	間切りの孫二郎とそのクルーの物語	なだいなだ	角川
紅蓮の女王	黒岩重吾	光文社	魔群の通過	山田風太郎	光文社
逆転	伊佐千尋	新潮社	舞いの家	立原正秋	新潮社
八月十五日の空	秦 郁彦	文芸春秋	魔女伝説	半村 良	中央公論社
灰色の奇跡	中島みち	講談社	密会	安部公房	新潮社
剥製の島	山田正紀	徳間	水の都	庄野潤三	河出
花の詩学	野口武彦	朝日新聞社	Mの世界	三田誠広	河出
涙をたらした神	吉野せい	弥生書房	燃える秋	五木寛之	角川
遙かなる祭	森崎和江	朝日新聞社	盲人重役	城山三郎	日本経済新聞社
春の鐘 上	立原正秋	新潮社	モンマルトルの陽と風	黒岩重吾	文芸春秋
平民、わが母の願った安楽死	鈴木千秋	新潮社	本居宣長	小林秀雄	新潮社
光のアダム	中井英夫	角川	無罪	大岡昇平	新潮社
光の廃墟	皆川博子	文芸春秋	マイホーム誕生	岡田誠三	日刊工業新聞社
非まじめのすすめ	森 政弘	講談社	波濤は歌わない上下	大原富枝	中央公論社
人の砂漠	沢木耕太郎	新潮社	汝/怒りもて報いよ西村寿行	スポーツニッポン新聞社	
独りきりの世界	石川達三	新潮社	夏	中村真一郎	新潮社
ひとすじの道1-3	丸岡秀子	偕成社	人間のなかのX	遠藤周作	中央公論社
螢川	宮本 輝	筑摩	新田義貞 上・下	新田次郎	新潮社
怒れど犬	高橋三千綱	講談社	黄金の日日	城山三郎	新潮社
犬笛	西村寿行	徳間	黄金の犬	西村寿行	徳間
イソップの首に鈴をつけろ	小峰 元	講談社	女の家庭	平岩弓枝	主婦の友社
いずこより	瀬戸内晴美	筑摩	おんな特捜刑事	樫原一郎	集英社
実験的生活	佐木隆三	講談社	おれたちの熱い季節	星野光徳	河出
人生は野菜スープ	片岡義男	角川	おとこの秘図三	池波正太郎	新潮社
輝かしき愚者の苔	野村光由	河出	ペンの散歩	尾崎一雄	中央公論社
影の時間	邦光史郎	祥伝社	ロマンの切子細工	森村誠一	角川
回帰線に吼ゆ	西村寿行	角川	龍がのぼるとき	村上新一郎	講談社
神々の夕映え	渡辺淳一	講談社	詐欺師	佐木隆三	潮出版社
彼のオートバイ、彼女の島	片岡義男	角川	醒めて見る夢	大庭みな子	講談社
カリスマの宴	森村誠一	文芸春秋	33時間	伴野 郎	朝日新聞社
片しぐれの記	水上 勉	講談社	さらば人間	田中光二	光文社
框の木祭り	高城修三	新潮社	さらば星座 濁流の巻上下	黒岩重吾	集英社
風の遺産	新田次郎	講談社	さすらいの甲子園	高橋三千綱	角川
風の中の翅のように上下	船山 馨	講談社	青春の休み時間	三木 卓	集英社
和宮様御留	有吉佐和子	講談社	閃光に向って走れ	佐木隆三	文芸春秋
慶長太平記一	半村 良	文芸春秋	戦慄の神像	川田 武	角川
結婚関係	笹沢左保	集英社	セルーナの女神	半村 良	河出
決断の時	三好 徹	朝日新聞社	灼熱の水平線	田中光二	徳間
虚空王の秘宝I	半村 良	徳間	時雨の記	中里恒子	文芸春秋
この胸に光は消えず	大石邦子	講談社	新ふらんす物語	萩野弘巳	講談社
根釧原野	畑 正憲	朝日新聞社	塩狩峠	三浦綾子	新潮社
皇帝のいない八月	小林久三	講談社	仕立屋銀次隠し台帳	結城昌治	講談社
骨肉の森	笹沢左保	文芸春秋	自然の断章	串田孫一	講談社

(8) 図書館だより

<その他の工学・産業>

街路の意味	竹山 実	鹿島出版会
歩行者革命	Breines, Simon	鹿島出版会
かいわい	材野博司	鹿島出版会
人間のための都市	Peters, P.	鹿島出版会
日本鉄道請負業史 大正・昭和(前期)編	日本鉄道建設業協会	
都市憲章	磯村英一	鹿島出版会
都市は「ふるさと」か	Lenz-Romei, F.	鹿島出版会
吉野川分水史		奈良県
アメリカ住宅論	Scully, V.	鹿島出版会
斑鳩の匠 宮大工三代	西岡常一	徳間
建築空間〔尺度について〕	Boudon, P.	鹿島出版会
建築VS.ハウジング	Pawley, Martin	鹿島出版会
空間としての建築	上, 下 Zevi, Bruno	鹿島出版会
巨匠たちの時代	Banham, Reyner	鹿島出版会
ライトと日本	谷川正巳	鹿島出版会
オレゴン大学の実験	Alexander, C.	鹿島出版会
パルテノンの建築家たち	Carpenter, R.	鹿島出版会
思想としての建築	栗田 勇	鹿島出版会
タリアセンへの道	谷川正巳	鹿島出版会
香辛料 IV	山崎峰次郎	エスビー食品
世界の食糧問題	Johnson, D. Gale	大明堂

科 <自然科学>

岩波科学の本 20-22		岩波
人間・地球・地球学	竹内 均	文芸春秋
変分学入門	福原満州雄	朝倉
岩波講座 基礎数学 19		岩波
共立数学講座 14		共立
物理学の再発見 2	高野義郎	講談社
電磁気学演習	熊谷寛夫	朝倉
岩波講座 現代物理学の基礎 2, 4-8		
	湯川秀樹	岩波
磁性体ハンドブック	近角聡信	朝倉
日本の物理学史 下	日本物理学会	東海大学出版会
応用分光学ハンドブック	吉永 弘	朝倉
衝突の理論 下-II	Mott, N.F. 他	吉岡書店
動物は地震を感知するか	力武常次	講談社
岩波講座 地球科学 1-3, 6		岩波
遺伝子操作	Cooke, Robert	東京化学同人
人類最後の実験	Wade, Nicholas	ダイヤモンド社
生物科学講座 1	大沢文夫他	朝倉
バイオコア: 新しい視点からの生物学 2・3		化学同人
基礎植物学	小野知夫他	裳華房
日本の野生動物 5, 10		汐文社
植物人間の記録	藤田真一	朝日新聞社

お知らせ

<予約貸出制度について>

図書の効率的利用のために予約貸出制度を設けました。新着図書、または、貸出中の図書を予約貸出した場合は、カウンターにある用紙に記入して、係員に申し出て下さい。

予約した場合は、時々図書室へ来て係員にたずねて下さい。

なお、新着図書の貸出は、約一週間展示した後にありますから、御注意下さい。

<視聴覚資料について>

現在、図書室には、図書とともに視聴覚資料も置いてあります。その種類は次のとおりです。

- 1) ミュージック・カセット
- 2) 文芸カセット
- 3) 語学カセット
- 4) レコード
- 5) スライド (化学・美術)
- 6) 映画 (物理)

これらの資料の利用方法は、普通の図書と同じですが、借り出したい時は、係員に申し出て下さい。

今後、その他の種類も購入してゆきますので、御利用下さい。

<JISについて>

本年度、「JIS Z: 一般、及び、雑」を購入いたしました。現在受入中の「JIS」は次のとおりですので、御利用下さい。

- | | |
|---|---------|
| B | 機械 |
| C | 電気 |
| D | 自動車 |
| G | 鉄鋼 |
| H | 非鉄 |
| K | 化学・試薬 |
| Z | 一般、及び、雑 |

編集後記

「図書館だより」が出ることになり……いや、出ました。なかなか出しにくいものです。内容のほとんどが「新着案内」になりましたが、今後も主として「新着案内」とし、さらに図書館利用のお知らせとしても活用してゆくつもりです。発行回数は、年に2-3回のつもりですので、図書館利用の手助けとして、御愛読下さい。